

東京の未来を見据え、子育て支援策をさらに強化します。
都民ファーストの会東京都議団の提案を反映した、新たな政策が実現しています。

都内の18歳以下すべての子どもに **月5,000円(年6万円)を給付開始します【実現】**



- 都内在住の0歳～18歳まで全ての子どもが対象
- 所得制限はありません
- 保護者等が申請手続きを行い、12月15日までに申請を受け付けた方は、本年1月に1年分を一括支給
- 都内在籍の月数に応じて支給
- 支給金額は子どもひとり月額5,000円
- 生活保護を受給していても収入に認定されません
- インターネットや郵送により、申請を受け付けています。

「子育てしやすいマンション・集合住宅」の整備を促進します。

全国で相次ぐ子どもの転落事故などを踏まえ、安全対策費用の助成も開始しました。

安全対策の工事費用を助成

「子供を守る」住宅確保促進事業

現在お住まいの集合住宅・マンションにおいても、子育て世帯が、住まいの安全性を高める改修工事等を行えるよう、費用の一部を東京都が補助します。子どもたちを転落事故や怪我などから守るため、ご家庭での取り組みを後押しすることとしました。



- 補助率：2/3
- 補助上限額：30万円/戸
- 同居者に子供（12歳まで）がいること。
- 賃貸マンションに居住（所有者の同意が必要）としているか、分譲マンションの区分所有者で自身が居住していること

対象となる工事例

- バルコニーや窓などへの転落防止手すり設置、エアコン室外機等への柵の設置
- バルコニーに面する窓への開口を制限するストッパーや補助錠等の設置
- 壁、柱等の出隅の面取り対策の実施 など

子育てしやすい住戸の供給を支援

「東京子どもすくすく住宅」認定制度

安全性や家事のしやすさなどに配慮された住宅で、子育てを支援する施設やサービスの提供など、子育てしやすい環境づくりを行っている優良住宅（集合住宅）を東京都が認定。事業者の設備費用も補助します。民間市場任せでは、なかなか供給されてこなかった子育てに適したマンション・集合住宅の供給を促します。新築・改修いずれも補助対象。環境づくりの程度に応じて、25万円～最大200万円/戸を補助します。

子どもすくすく住宅のイメージ



東京都で「卵子凍結」に「最大30万円」の支援を開始!

年齢が上がるほど卵子は老化し減少してしまいます。若い年代のあいだに卵子を採取・保存しておくことで、将来、出産・育児の環境が整った時期に体外受精などで妊娠をめざすことができます。これまでも不妊治療への各種助成を充実してきましたが、**卵子凍結への助成は都道府県で初めて行います。**一昨年より、都民ファーストの会東京都議団として、関係者へのヒアリングなどを重ねた上で支援制度の創設を小池都知事に要望し、今回それがカタチになりました！**東京で働き暮らす若い世代の実態を踏まえて、子どもを産み育てたいと望んでいる方をしっかりサポートする政策を今後も導入していきます。**



ポイント解説

- ① 東京都に住む18歳～39歳の女性が対象
 - ② 卵子凍結時に最大20万円費用を助成。さらに、保管更新時2万円×最大5年間支給。
 - ③ 都が実施する説明会に参加した上で、登録医療機関で卵子凍結を行うこと等が条件
 - ④ 第三者への提供や海外への移送は対象外
 - ⑤ 9月25日(月)から説明会申し込み受付中
- また、凍結卵子を使用した生殖補助医療に対しても、1回につき上限25万円(最大6回)の支援を開始します。

保育園の待機児童問題は解消、次の段階へ!

都民ファーストの会東京都議団の誕生から6年、取り組みを大幅に強化した結果、東京都の保育の待機児童問題はほぼ解消しました。



現在は、①**保育園の教育や運営の質の向上**、②**保育園に預けていない家庭に対する一時保育などの支援強化**、③**小学校進学後の学童保育の待機児童解消**、④**学校教職員の負担軽減と教育の質向上**の4つに政策の力点を移して更なる取り組みを進めています。



■都政・都議会についての
ご意見・ご要望をお聞かせください

本橋ひろたか

■連絡先 〒171-0042 東京都豊島区高松3-12-16
TEL: 03-6478-9556 FAX: 03-6755-9750
Eメール: hirotake5@t.toshima.ne.jp

都民ファーストの会 東京都議団

東京都議会議員(豊島区選出)

もとはし **本橋ひろたか**



PROFILE

昭和36年11月9日豊島区高松で出生。忠信幼稚園、豊島区立高松小学校、豊島区立千川中学校、立教高等学校を経て、昭和59年3月立教大学法学部法学科卒業。平成11年豊島区議会議員初当選(連続5期)。豊島区議会議員長(2期)等を歴任。平成29年東京都議会議員初当選(連続2期)。東京都議会副議長、予算特別委員会委員長等を歴任。

都議会報告とご挨拶



▲都議会本会議場での本橋副議長と小池都知事

令和6年の新春を迎え、コロナ禍から平時への移行も進み、社会の動きが再び活性化しつつあります。そうした中、少子高齢化の一段の加速、物価上昇に対し賃金・所得の上昇が追いつかない構造的な課題を抱えた経済、時代に即した更新が必要となる社会インフラのあり方や安全安心の確保等々、これまで東京が抱えてきた課題は一層深刻化しております。そこから、昨今の世界情勢の劇的な変化も踏まえ、首都・東京には次世代のために強い覚悟を持ち、日本全体の改革をリードしていく責務があると、私は考えます。

そのような意味でも、今振り返りますと、令和3年7月より令和5年10月迄、私が都議会副議長を務めた間に開会された各都議会定例会では、そうした観点からの質疑が数多く行われたように思います。

特に、私が副議長として最後に迎えた昨年の第三回定例会での、私ども都民ファーストの会東京都議団の代表質問中、「子育て・教育」「経済」そして「福祉・健康」がまさにそのようなものでした。

「子育て・教育」では、「都立高校全ての学校で、令和6年度以降空調設備の改修工事に向けた設計等に着手する」との答弁に始まって、「018 サポートの申請手続の改善」「教育・住宅支援や経済的安定に向けた支援」等の若年層に対する効果的な施策の検討や、「子供目線に立ったフリースクールの後押し」「子供を性被害ないし性犯罪被害から守る取組」等々の質問に対して、都側より前向きな答弁がありました。

「経済」では、Tokyo Innovation Base の広報強化、起業家が母校に出向いて自らの体験を語ることを通じた失敗を恐れず挑戦する若者への応援の強化、「年収の壁」突破に向けて会社の中で女性がキャリアアップにより力を発揮するサポート、シルバー人材センターの新たな仕事の掘り起こし・DXを活用したマッチング、インボイス制度に関する相談制度の大幅な拡充等々、「福祉・健康」では、HPVワクチンの男性接種にかかる区市町村への支援、障がい者虐待の通報・相談窓口の体制確保、補聴器の効果的な支給支援、災害時の動物救護対策の強化等々、小池百合子都知事等都側より極めて重要で前向きな答弁があったところです。

私は昨年の10月5日をもちまして都議会副議長職を無事終えることが出来ました。今後は、一議会人として引き続き、私ども都民ファーストの会東京都議団の一丁目一番地である「東京大改革」を推し進め、これまで既存事業の見直し等を通じて年間約1,000億円の新規財源を確保したりして、例えば「018サポート」をはじめとした東京の未来への投資をなお一層強化する等、過去の都政からの大きな構造改革を展開してまいります。同時に、小池百合子都知事と共に、私も豊島区議会議員の頃より問題視している「偏在是正措置」の都財政への弊害について、地域住民の理解を得る取り組みの強化や、国から地方への権限と財源の大胆な移譲による、地方分権の抜本的な見直しの実施等々に、鋭意取り組んでまいります。



▲都議会本会議場での本橋副議長退任あいさつ

◆ 本橋ひろたか活動報告 ◆

東京都名誉都民の顕彰、功労者の表彰式

「令和5年度東京都名誉都民顕彰式及び東京都功労者表彰式」に出席してまいりました。名誉都民の称号は、社会文化の興隆に功績があった人に対して、その功績をたたえ、都民が郷土の誇りとして敬愛する対象として贈られるものです。また、東京都功労者として、「地域活動功労」など13分野において、294名（うち19団体を含む）の表彰を執り行いました。当日は、副議長室を出て、都議会と都庁との渡り廊下をつたって、第一本庁舎5階南側「控室C」へ。そこで名誉都民として顕彰されました「今井道子」さん、「中村メイコ」さん、そして「堀田力」さんと顔合わせをするとともに、四方山話に花を咲かせました。また、そこにいらした名誉都民選考委員会委員の「増田明美」さん、「坂東真理子」さん、そして「野本弘文」さんのお三方に、選考の労に感謝の気持ちを伝えさせていただきました。

開始時刻に合わせて大会議場ステージへと移動。今年度は新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行されたため、受賞者の皆さんの出席を制限していないせいか、会場内は荘厳な雰囲気包まれていました。

式典の中身それ自体は、国歌奏楽、名誉都民称号記贈呈、功労者表彰状贈呈、小池ゆりこ都知事式辞、三宅茂樹議長祝辞、そして名誉都民各位と功労者代表の謝辞と続きまして閉式となりました。

▲都庁第一本庁舎5階大会議場にて

東京都・東村山市合同防災・救出救助訓練

「令和5年度東京都・東村山市合同総合防災訓練・救出救助訓練」に参加するとともに、ご挨拶・訓練講評をさせていただきました。

昨年は大正12年に発生した関東大震災から100年の節目に当たるわけですが、あの関東大震災からは、様々な災害対応の経験ないし教訓が得られたことは言うまでもありません。それは、関東大震災時、①消防体制が進歩したこと等々により技術進歩を過信し、住民は大火への備えを忘れる等、災害への理解が不足していたことや、鍋・窯・布団などの家財道具まで持ち出し、それらを大八車で運搬する住民もあり、避難が遅れてしまったこと。②住民組織による食糧の配給や、各家庭での無償の宿泊等、実際の救護にはボランティア的な民間の活動が大きな役割を果たしたこと。③ラジオ放送がまだ無かったこともあり、そもそも通信設備が脆弱で、適切な情報収集や共有が出来ず、要救助者の把握が困難だったこと等々です。

以上を踏まえ、この度の訓練の特徴は、①都民の防災意識の向上につながる訓練であること。また②自助・共助の防災行動を体験する都民参加型訓練であること。さらに③防災DXを活用した救出救助訓練、本部審議訓練であることの3点に集約されます。

この度の総合防災訓練では、例えば、救出救助訓練では、ドローンからの映像を機関の合同指揮所で共有することによって、その正確性・迅速性を担保していること。また、海外救助隊として、初参加の「マレーシア・クアラランプール」をはじめとして「台湾・台北」「台湾・新北」「韓国・ソウル市」「シンガポール」と、過去最多の5都府市の受け入れが行われたこと等々、防災行政への力の入れようが分かることが出来ました。

都は、引き続き、こうした大規模な実践的訓練を通して、行政及び各防災機関の災害対応能力の向上に努めなければなりません。



▲防災・救出救助訓練への講評・挨拶

都歯科医師会・同連盟による予算要望

東京都歯科医師会及び東京都歯科医師連盟の皆さんの「令和6年度東京都予算に係る要望」をお受けしました。

東京都は平成30年3月に「東京都歯科保健推進計画 いい歯東京」を策定しましたが、ここで示された方向性と目指すべき指標を達成する為には、各地区歯科医師会の先生方の参画とご尽力が欠かせません。特に、都の歯科医師会の先生方には、①都民の健康を守ってもらう為に保健医療局・福祉局ならびに東京都立病院機構と連携していただきたいこと。また②都民のライフステージに寄り添った地域歯科保健活動を通じて、児童虐待防止対策、食育支援、周術期口腔ケア、在宅歯科医療に積極的に参画していただきたいこと。さらに③高齢者への口腔機能維持・向上、認知症対策オーラルフレイル予防、介護予防といった健康長寿社会に直結する歯

科保健サービスを多職種と連携しながら展開していただきたいこと等々をお願いしたいところです。

都としても、都民が安心して質の高い歯科診療を受け、生涯にわたって健康に暮らせるよう、医療提供体制や在宅歯科医療の整備、医療人材の育成、歯科衛生士の離職防止、生活習慣病の予防や健康づくり等々を推進している歯科医の先生方を支えるべく、予算編成に関しては、特段の配慮をしなくてはなりません。



▲都議会議事堂6階特別応接室にて

特別区長会による要請活動

特別区長会の役員の皆様からの『令和6年度東京都の施策及び予算に関する要望』に対する支援について、の要請活動をお受けいたしました。

都内の23の特別区は、日々、首都東京の行政を担う基礎自治体として住民の期待に的確に対応するべく、積極的な取り組みを進めていますが、特別区の住民にとって喫緊の課題である「安全・安心な街づくり」「福祉・健康増進」「都市基盤整備」「環境負荷軽減」等々の施策を、力強く遂行していくためには、なお多くの面で「制度改善」「構造改革」「財政措置充実・強化」が必要となっています。

都といたしましても、令和6年度の予算編成にあたっては、特別区の置かれた状況と事情を斟酌しつつ、その要望の実現に特段の配慮をしなくてはなりません。また、その後の歓談では、「財政調整制度」に関するご意見も頂戴したりしましたが、都議会といたしましても特別区長会としっかりと連携して、この度の要望内容が実現されるよう尽力していくことが重要です。



▲吉住健一会長より要望書を受領

ベトナム・ハノイ市との友好・親善

ベトナム・ハノイ市人民評議会副議長御一行様の都議会表敬訪問をお受けいたしました。まずは副議長の私からご挨拶させていただきました。①ベトナムとは1973年に外交関係を樹立して以降、政治や経済、文化、スポーツなどの幅広い分野において友好・協力関係が発展・進化していること。②東京都といたしましても、ハノイ市とは教育、中小企業の海外展開、観光施策や水道事業等々、様々な分野で交流を深めていること。③今年度は日本とベトナムの外交関係樹立50周年を迎えており、これを機に相互理解を一層深めて、両国の友好関係のさらなる進展を期待していること。そして結びに、④本日の訪問によって東京都とハノイ市、我が国とベトナムの友好・親善を深めるものになることを心から祈念させていただいたところです。

つづいての歓談で、私の方からは、アジア地域との関係をさらに幅広く深めていくためにも、アジア諸地域の中で、豊富な労働力と勤勉な国民性などによって、目覚ましい成長を遂げているベトナムと交流することは大変意義深いことを訴えました。そして、特に、政治、経済、文化の中心ともいえるハノイ市に魅力を感じている事と、都としても人材を派遣して実務レベルでの交渉等を積み重ね、ハノイ市との友好を一層深めたい旨をお伝えしました。



▲ファム・クィ・ティエン副議長のご挨拶

水害から都民の生命と財産を守る河川改修の促進

「第61回東京河川改修促進連盟促進大会」に出席してまいりました。この大会は、



▲河川大会にて都議会を代表して挨拶

東京都の14区・21市・2町・1村の38団体が集結し、地域住民の生命や財産を水害から守り、住みよい環境を整備する為、その総意をもって、国及び政府並びに東京都に対し、東京全体の河川改修の早期実施等々、治水対策の促進を強く要望するとともに、この実現に邁進するべく開催するものです。

促進大会では、都議会を代表して私からも一言ご挨拶をさせていただきました。①昨今

の特徴的な現象である、台風の頻発やゲリラ豪雨、線状降水帯による集中豪雨の発生とそれによる堤防決壊や河川の氾濫による被害を。これを踏まえた上で②被害を最小限に抑える為、これまで以上の治水対策の推進の必要性を、護岸整備や調節池の整備を例に挙げて申し述べました。

特に、東京都内の14区から見れば、ここ最近の調節池の効用には目を見張るものがあるとともに、更なる増設・整備が期待されることです。都は引き続き本大会関係者の皆さんと力を合わせて、水害から都民の生命と財産を守る河川改修の促進に全力を尽くさなければなりません。

ものづくり・匠の技の祭典2023

「ものづくり・匠の技の祭典2023」の開会に先立つ、「オープニングイベント・式典」に出席し、都議会を代表してご挨拶してまいりました。

私からは、①我が国の伝統工芸や高度なものづくりの技術は、はるか昔からの先人の知恵と工夫を受け継いだもので、それを現代の匠の皆さんが更なる磨きをかけてこられた日本の「宝」ともいうべきものであること。②今回の祭典でも、全国から優れた技能を持つ職人が一堂に会し、日本が世界に誇る匠の技を、実際に拝見できるとともに、体験までできる、有意義な内容であること。③この祭典が東京をはじめとして、全国各地で培われてきた様々な分野における匠の技の素晴らしさを再発見するとともに、国内外に対してその魅力を広く知ってもらえる絶好の機会となること、おおいに期待していること。そして最後に④都議会としても、東京の産業を振興し、働く方々の豊かな暮らしを実現していくための、10年後、20年後を見据えた様々な取り組みを推進していくこと等々を、お伝えさせていただきました。

今回のオープニング作品は「匠の地球儀」でした。ものづくりの第一線で活躍する匠たちが結集し、持続可能な世界の実現を願ひ、この度特別な大型地球儀を製作したとの事です。ちなみに、球体製作は「東京都板金工業組合と東京都建築板金技能士会」、絵柄製作は「東京内装仕上技能士会」、



▲「匠の地球儀」

陸地製作は「東京都左官組合連合会」、緑地製作は「日本造園組合連合会東京都支部」、そして台座制作は「全国建設労働組合総連合東京都連合会」です。

学校教育におけるスポーツの充実

令和5年夏の「第105回全国高等学校野球選手権記念大会 東・西東京代表校の都議会訪問」を、三宅茂樹議長と副議長の私の両名でお受けいたしました。

今回訪問してくださったのは、東東京大会優勝校の「共栄学園」と西東京大会優勝校の「日大三高」の、校長先生、監督さん（ないし部長）、及び主将の皆さんです。私からの挨拶では、①何よりも多くの高校野球部がひしめく、全国でも屈指の激戦区と言われる各東京大会での優勝を心よりお祝いするとともに、選手の皆さんのたゆまぬ努力に敬意を。また②その原動力とも言うべき、常に温かく見守ってくれたご家族、熱心に指導してくれている監督やコーチ、そして応援してくれている地域の皆さんへの感謝の気持ちを糧にした甲子園での戦いを。さらに③都代表として持てる力を存分に発揮され全国制覇を成し遂げられることを、都民の皆さんと共に心から願っている旨を、お伝えさせていただきました。

夏の甲子園大会は不思議です。猛暑の中でも選手の皆さんの純粋でひたむきなプレーは、必ずと言って良いほど、毎年見ている私達に勇気と感動を与えてくれます。都は、学校教育の一環でもあるこの分野での高校生の活動をより一層充実したものにしなければなりません。



▲東西両代表校に対して応援メッセージを贈る

第238回13都道府県議会議長会

大阪市で開催されました「第238回13都道府県議会議長会議」に出席してまいりました。この都道府県議会議長の13のメンバーは、大阪府、北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、静岡県、愛知県、京都府、兵庫県、広島県、福岡県、そして東京都であり、この度のホストは大阪府でした。

開会後は、大阪府議会議長と大阪府知事のご挨拶、出席正副議長の紹介、そして大阪府議会議長の久谷真敏（くやまさのり）氏を座長として議事が始まります。

今回の会議テーマは、「議会DXについて」であり、私としても、これはこれで非常にタイムリーなテーマと受け止めたところです。「医療DX」とか、「建設DX」等々、昨

今、デジタル技術の進展に伴って、民間企業や自治体ともにリモートワークやペーパーレス化、データ活用といった取り組みが大変盛んです。都道府県議会においても、オンラインでの委員会審査や議会資料のペーパーレス化等々デジタル化への取り組みが進んでいます。今後は、平時・災害時・コロナ禍における議会機能の発揮、住民とのコミュニケーションの確保、エビデンスやデータに基づく政策提言、政策評価の実施等々の観点から、なお一層の議会DXの推進が求められていると思います。と同時に、昨年5月の地方自治法の改正によって、令和6年4月からは、請願書の提出をはじめとした地方議会にかかる書面等の手続きに関しては、一括してオンライン化が可能となる方向です。

会議の中で、東京都議会を代表して私からは、都議会は、①令和元年から9つすべての常任委員会、令和2年から特別委員会においてインターネット中継を実施していること。②令和2年に委員会条例を改正。令和4年の予算委員会及び常任委員会の合計2回、委員がオンラインにより委員会に出席していること。③令和元年から議員用のタブレット端末を各議員に貸与していること。④令和3年から音声ソフトを活用。聴覚に障害のある議員の活動を支援していること等々を報告させていただきました。

その後は、次回開催地を「広島県」と決定し議事は終了。さらに、全国議長会事務総長の高原剛氏より報告を受けて会議は閉会となりました。



▲都議会のDXの取り組み状況を説明

都原爆犠牲者追悼のつどい

「令和5年度東京都原爆犠牲者追悼のつどい」に、三宅茂樹都議会議長の代理として出席してまいりました。

まずは、開会後、黙とうをささげ、主催者である小池知事より式辞が述べられました。次に、「追悼のこぼれ」を、一般社団法人「東友会」の代表理事の家島昌志氏、都議会議長の三宅茂樹氏（代読：都議会副議長の私）、広島市長の代理の方、長崎市長の代理の方、葛飾区長の青木克徳氏、そして参列者代表の方よりそれぞれ頂戴しました。

追悼のこぼれにおいて、私からは、犠牲となられた御霊に、都民を代表して謹んで哀悼の誠を捧げること。原爆の犠牲になられた尊い命と、被爆者、ご家族の皆様のご献身と犠牲の上に、今日の私たちの社会は築かれていること。筆舌に尽くしがたい惨状をもたらした原爆と戦争の記憶を次世代に語り継いでいくことは、今を生きる私たちの重要な使命であること。ロシアによるウクライナ侵略はその終わりが見えず、長期化の様相を呈し、そこでは多くの尊い命と生活が、戦禍の中で失われており、日本も、厳しい安全保障環境に直面する中、改めて平和追求への努力を重ね、



▲都議会からの「追悼のこぼれ」を代読

未来へとつなげていかなければならないこと等々を語らせていただきました。

その後は、弔電のご紹介、献花と続いていきました。

この追悼のつどいを契機に、改めて都は、夢と希望に満ちた、平和で持続可能な世界の実現に貢献するための努力に拍車をかけ、そのような世界を、素晴らしい未来を子供たちに引き継いでいかなければなりません。

特別区議会議長会による要請行動

特別区議会議長会会長の山本香代子氏他8名の議長さんより「特別区議会議長会『令和6年度東京都の施策及び予算に関する要望』に対する支援について」への理解・協力の要請行動をお受けいたしました。

これは、小池百合子都知事宛に提出された、上記『要望書』に関して、その内容が実現されるように都議会側からも応援してもらいたい旨の特別区議会議長会の総意から生まれた活動です。私も豊島区議会議長の頃に、特別区議会議長会の副会長としてこの要請活動をした経験があります。

上記『要望書』にある6項目、すなわち①少子化対策、子供・若者支援、②児童相談所設置への財源措置、③鉄道連続立体交差事業の推進、④防犯カメラの維持管理経費等への助成、⑤教員不足の解消、⑥ホームレス対策の充実、いずれも特別区の置かれている厳しい状況を表現している代表的かつ恒常的な課題とすることが出来ます。都議会としてもその実現に協力しないわけにはまいりません。



▲丸山高司副会長より要望書を受領